命駕遊山水、長忘冠冕情、安得王喬道、控鶴入蓬瀛、○中略

贈正一位太政大臣藤原朝臣史五首○中略

五言、遊吉野二首、○一首略

飛文山水地、命爵薜蘿中、漆姫控鶴擧、柘媛接莫通、煙光巖上翠、日影浪前紅、翻知玄圃近、對翫入松風、

〔萬葉集十九〕六日、○天平勝寶二年四月遊覽布勢水海○越中作歌一首幷短歌、

念度知、丈夫能、許能久禮繁思乎、見明良米、情也良牟等、布勢乃海爾、小船都良良奈米、眞可伊可氣、伊許藝米具禮婆、乎布能浦爾、霞多奈妣伎、垂姫爾、藤浪咲而、濱淨久、白浪左和伎、及及爾、戀波末佐禮杼、今日耳、飽足米夜母、如是己曾、彌年能波爾、春花之、繁盛爾、秋葉能、黃色時爾、安里我欲比、見都追思努波米、此布勢能海乎、

反歌

藤奈美能、花盛爾、如此許曾、浦已藝廻都追、年爾之努波米、

〔古今著聞集五和歌〕御堂關白○藤原道長大井川にて遊覽し給ふ時、詩歌の舟をわかちて、各堪能の人々をのせられけるに、○下略

〔古今著聞集十四遊覽〕寛治六年十月廿九日、殿上逍遙ありけり、其時の皇居は堀河院也ければ、その北なる所にて、人々あつまりたりける次第に、馬をひかせて北陣の上をわたして、叡覽有けり、人々三條猪熊にてぞ馬に乘ける、頭辨季仲朝臣、頭中將宗通朝臣、烏帽子直衣、其外の人々は狩衣をぞ著たりける、所衆瀧口小舍人あひしたがひける、大井河にいたりて、紅葉の船に乘て盃酌ありけるには、大夫季房、侍從宗輔、實隆などは、年をさなければ、貫首の上にぞ差たりける、夜に入て集會の所にかへりて、各冠などしかへて、內裏へまいりて、宮の御かたにて和歌を講じけり、先盃酌ありけるとかや、むかしはこのことつねのことなりけるに、中ごろよりたへにけり、くちをしき世